

与党の中枢として活躍する高木毅氏

新幹線敦賀・新大阪整備委員長に就任

安倍内閣で国交副大臣、復興大臣に就き、令和元年から衆議院議院運営委員長を務めるなど長らく与党の中枢として活躍する高木毅氏が今回、敦賀・新大阪間整備委員会の委員長に就任。建設財源の確保など重要課題が山積するが、嶺南、丹南地域唯一の自民党代議士として課題解決に強い使命感と責任感をもってまい進する。

を遺憾なく発揮。

国会運営の重要な役割を担う

当選7回を数える高木毅衆議院議員。平成12年、衆院選福井3区(現福井2区)にて初当選以来、自民党遊説局長を皮切りに防衛庁長官政務官、党副幹事長、衆議院北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会筆頭理事、党外交部会長などを歴任し、持てる力量

平成25年には、閣僚クラスの人材を充てるのが慣行になつている衆議院議院運営委員長長の重責を全うするや、第2次安倍内閣で国交副大臣、第3次安倍内閣では復興大臣、福島原発事故再生総括担当に就任。多くの原発を抱える嶺南から選出された高木氏が福島原発事故を経験した被災地の復興に取り組み、被災地に頻繁に足を運び、被災者に寄

り添い信頼関係を築き、被災者にとつて何をどうすべきかを直接感じ取りそれぞれの担当者に支持をする。「現場主義に徹する」という心がけは常に変わらない。さらに、自民党国会対策副委員長、衆議院原子力問題調査特別委員長など与党はもとより衆議院の中枢で果敢な活動を繰り広げる。令和元年10月、衆議院議院運営委員長に再度就任。各党

が思いを主張しあう、まさに国会全体の最前線であり、法案の審議を各委員会に振り分けるいわば国会のコントローラーの役割を果たす重要な委員会であり、そのトップに立つ高木氏は、円滑に議論を深めるあるべき道筋を作るために信念をもって望み、新型コロナウイルス感染症対策など重要案件が山積する中、国会運営の重要な役割を担う。与党の中核として長らく活